

令和5年度 第1回志布志市総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和5年6月5日(月)
開会 午前10時00分 閉会 午前11時20分
- 2 場 所 志布志市役所 志布志庁舎4階 庁議室
- 3 報 告
(1) 学校給食調理及び配送業務の民間委託業者選定結果について
- 4 協 議
(1) 今後の児童生徒数の推移について
(2) 小学校の在り方に関するアンケート調査報告及び令和5年度に取り組む小学校の在り方検討について
(3) かがしま国体・かがしま大会開催に伴う協力体制について
- 5 出席者 (出席構成員)
志布志市長 下平晴行
教育長 福田裕生
教育委員 松原治美
教育委員 島津陽亮
教育委員 津町千代子
教育委員 益田裕子

(事務局)
志布志市副市長 溝口 猛
総務課長 小山錠二
総務課行政グループリーダー 下出克也
総務課行政グループサブリーダー 吉井啓剛
教育総務課長 岡崎康治
教育総務課長補佐 児玉雅史
教育総務課長補佐(学校給食センター次長) 田之口俊博
学校教育課長 上木勝憲
学校教育課参事兼指導係長兼指導主事 久木崎 敢

学校教育課参事兼指導主事	赤塚健志
学校教育課長補佐兼学校教育係長	川崎喜代人
生涯学習課長	江川一正
生涯学習課長補佐兼生涯学習係長	河野尚仁
生涯学習課国体推進係長	徳重康成

6 会議の経過

午前10時00分 開会

○ 開会

署名

○ 市長あいさつ

【下平市長】 皆さん、こんにちは。

令和5年度1回目の総合教育会議ということでよろしくお願ひ申し上げます。

改めて、教育委員の皆様方には、平素から本市の教育行政の推進に御尽力いただきまして、心から感謝を申し上げたいと思います。

今回の協議につきましては、主に、昨年の会議でも少し意見を交わした内容と関連があるようですが、「児童及び生徒数の推移を踏まえたアンケート調査結果に基づく今後の小学校の在り方」をテーマとしております。

是非、皆様方の御意見をいただきまして、十分に意見交換を行い、実りある会議にさせていただきますことをお願い申し上げます。冒頭の御挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

○ 協議

【小山課長】 それでは、早速ではありますが、会次第3の報告及び会次第4の協議に入りたいと思います。

会議の議長につきましては、総合教育会議設置要領第4条第4項の規定により市長が務めることになっておりますので、下平市長よろしくお願ひいたします。

【下平市長】 まず、「報告(1) 学校給食調理及び配送業務の民間委託業者選定結果について」、事務局の説明をお願いします。

【田之口補佐】

志布志市立学校給食センター調理配送業務委託事業者選定結果について報告いたします。資料の1ページを御覧いただき、選定に至るまでの経過報告について御説明させていただきます。

令和5年4月1日に志布志市プロポーザル方式志布志市プロポーザル方式実施規程に基づき、志布志市立学校給食センター調理配送業務委託プロポーザル審査委員会を設置したところです。志布志市プロポーザル方式実施規程では、会長及び委員5人以上で組織することになっており、会長は所管課長、委員は、会長が指名する職員をもって充てると定められていることから、所管課である教育総務課長が会長を務め、委員に学校給食に関係のある課の課長及び課長補佐級の職員で構成しました。

4月3日に志布志市立学校給食センター調理配送業務委託プロポーザル審査委員会実施要領を公表し、同日から同月11日までは、受託事業者の募集を行いました。

志布志市立学校給食センター調理配送業務委託プロポーザル審査委員会実施要領に関しては、4月6日から同月12日までを質問の受付期間とし、同月11日には、説明会及び見学会を実施したところです。

4月17日に志布志市立学校給食センター調理配送業務委託プロポーザル審査委員会実施要領等に関する質問への回答を行い、同月19日から5月8日までを企画提案書等の提出期間としたところです。

5月10日に有識者等との意見交換会を開催し、学校給食において専門的な知識と経験を有している方々から御意見を伺い、その意見を志布志市立学校給食センター調理配送業務委託プロポーザル審査委員会に報告し、評価の視点の参考として審査に生かせるよう情報収集の場として意見交換会をしたところです。

5月11日に1回目の志布志市立学校給食センター調理配送業務委託プロポーザル審査委員会を開催し、第一次審査における書類審査を行い、審査の結果、4事業者の全てを合格としたところです。

5月16日に2回目の志布志市立学校給食センター調理配送業務委託プロポーザル審査委員会を開催し、提案書等の配布及び評価方法の説明等を行い、5月22日の3回目の志布志市立学校給食セ

ンター調理配送業務委託プロポーザル審査委員会では、第二次審査となるプレゼンテーション及びヒアリング審査を実施し、志布志市立学校給食センター調理配送業務委託プロポーザル審査委員会において優先交渉権者が推薦決定されたところです。

(一部非公表)

5月29日の入札・契約手続運営委員会において、志布志市立学校給食センター調理配送業務委託プロポーザル審査委員会の結果に基づき株式会社東洋食品を推薦し、優先交渉権者として決定したところであります。株式会社東洋食品の会社概要につきましては、本社は東京都で、昭和61年から35年以上の学校給食センターの調理業務経験があり、全国でアレルギー対応203か所を含めて学校給食センター288か所となる国内最大の学校給食受託の実績を有しています。また、県内では12か所の受託実績のうち、調理配送一括受託を10か所行っております。

今後は、令和5年6月に優先交渉権者との交渉、契約締結及び業務従事者の募集を開始し、令和5年7月には業務引継を行い、令和5年8月1日から業務委託を開始する予定にしています。以上で、報告を終わります。

【下平市長】

ただ今の報告について、皆様から質問・意見はありませんか。特に意見等も無いようですので、会次第4の協議に入ります。協議(1)の「今後の児童及び生徒数の推移について」を議題とします。事務局の説明をお願いします。

【児玉補佐】

教育総務課の児玉と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。内容につきましては、資料の2ページから9ページまでになります。

2ページを御覧ください。まず、1の4月6日現在の児童生徒数ですが、表の右側上段に小学校の合計として1,659人、前年度の小学生は、1,742人でしたので、83人の減となっています。右側中段に中学校の合計が832人、前年度も同数で、増減なしとなっています。

2の基準年度の令和4年度からの新入学児童数の推計ですが、令和11年度の児童数が令和4年度の出生数となっています。最下段の右側から2列目で、162人となっています。表左端の就学が令和4年度で誕生が平成27年度における出生数が281人でしたので、比較すると119人の減少となっています。令和9年度から11年度までの入学児童数は、164人、183人、162人となっていますので、少子化が更に加速していることが分かると思います。

3ページを御覧ください。3の地区別児童生徒数の推移ですが、中学校全体が令和4年度と令和11年度を比較すると57人、6.9%の減となっており、小学校全体が、518人、29.7%の減となっています。小学校全体の学年ごとの比較を見ていただくと、6年生が32人、5年生が60人、4年生が84人、3年生が133人、2年生が90人、1年生が119人とそれぞれ減となっており、低学年になるほど減少数が多くなっているのが分かると思います。それぞれの地区では、松山地区が101人、51%の減、志布志地区が184人、20.9%の減、有明地区が233人、35.1%の減となっています。

また、水色の部分ですが、令和17年度の中学校の生徒数になります。上段左側の中学校全体の令和4年度の生徒数は832人ですが、2段目の表、小学校全体の右側の水色部分では、509人となりますので、323人、39%の減となります。上から3段目の松山地区では、37人となりますので、令和4年度の生徒数が99人ですので、62人、63%の減となる見込みとなっています。同様に12年後の志布志地区の中学生は316人になり、68人、18%の減、有明地区の中学生は156人になり、193人、55%の減となることが見込まれています。

4ページを御覧ください。中学校区別の推移ですが、松山中学校区の3小学校のうち、2校が50%を超える減少率となっており、全体で101人、51%減少すると見込まれています。

5ページを御覧ください。志布志中学校区の6小学校ですが、志布志小学校で29人、10.2%の減、香月小学校で36人、13.2%の減、安楽小学校で65人、26.3%の減、特認校3校については、令和6年度からの新規を見込んでいませんので、令和11年度の児童数は、それぞれの小学校の校区に住んでいる児童の数となります。潤ヶ野小学校が11人、森山小学校が3人、田之浦小学校が8人と

なっています。全体で、184人、20.9%減少すると見込まれています。

7ページを御覧ください。有明中学校区の2小学校ですが、有明小学校は52人、34.2%の減が見込まれていますが、通山小学校は、5人増え、3.8%増となっており、市内で唯一増加することが見込まれております。有明中学校区全体では、47人、16.5%減少すると見込まれています。

8ページを御覧ください。宇都中学校区の4小学校ですが、原田小学校を除いて、大幅に減少する見込みとなっております。蓬原小学校が42人、53.8%の減、野神小学校が74人、55.6%の減、山重小学校が21人、44.7%の減となっており、宇都中学校区全体では、138人、45.7%減少すると見込まれています。

9ページを御覧ください。伊崎田中学校区ですが、伊崎田中学校が11人、27.5%の減、伊崎田小学校が48人、63.2%の減となっており、小学校、中学校とも市内で一番減少率が高くなっています。

このように、昨年度よりも少子化が進行し、厳しい状況になっていくことが分かっていただけだと思います。以上でございます。

【下平市長】 ただ今説明がありましたが、児童生徒の推移の結果を見て、皆さんから何かご意見等はございませんか。

【島津委員】 7ページの通山小について、市内で唯一増加していますが、その要因は何か分かりますか。

【岡崎課長】 確かに、通山小だけが、市内で唯一微増となっております。この通山校区は、押切地区、通山地区及び肆部合地区の三地区から構成されています。全体として肆部合及び押切地区に比べ通山地区は、借家が多いこと、また、最近の高速道路等のインフラ整備において利便性が向上しているという状況等から、借家に居住される方が増加傾向にあるのではないかと思うところです。さらに、尚志館高校のある台地に新築住宅が増えていることも、通山小児童数が増加している要因になっているのかと思うところです。

【下平市長】

その他に、何かご意見等はございませんか。

特に無いようですので、次に、協議(2)の小学校の在り方に関するアンケート調査報告及び令和5年度に取り組む小学校の在り方検討についてを議題といたします。事務局の説明をお願いします。

【児玉補佐】

本年1月に実施いたしました、小学校の在り方に関するアンケート調査について説明をさせていただきます。

別冊の1ページを御覧ください。アンケート調査の概要について、調査の目的、調査対象、調査方法等について記載しております。

2ページを御覧ください。アンケート調査結果の全体分について記載しております。問1の「お住まいの小学校区はどこですか」につきましては、回答世帯数は704件で、回答率は57.3%でした。回答率の最高は尾野見小学校の93.8%で、最低は蓬原小学校の30.5%でした。問2の「学校に通うお子さんはいらっしゃいますか」では、小学4年生の保護者からの回答が最多となっております。

3ページの間3の「今後、学校の在り方について検討が必要だと思いますか」につきましては、学校の在り方についての検討が、「すぐに必要」、「将来的には必要」との回答が合わせて81.7%あり、保護者が、教育環境について検討が必要と感じていることがうかがえます。また、泰野小、潤ヶ野小、田之浦小では、「すぐに必要」が最多となっております。

4ページを御覧ください。問4の「問3の理由で近いものを選んでください。(複数回答)」につきましては、「すぐに必要」、「将来的には必要」、「分からない」を選択した回答者の理由としては、⑩PTA活動等における保護者の負担、⑨子ども一人一人に目が届きやすい、⑭クラス替えがなく人間関係が固定化しやすいの順に多くなっており、児童数が少ないことに肯定的な意見も多いですが、否定的な意見の方が多くなっています。「必要はない」を選択した回答者の理由として、最多は⑨子ども一人一人に目が届きやすいですが、①多様な考えに触れる機会が多い、③集団教育活動に活気が生まれるなど、児童数が多いことに肯定的な理由が多

くなっております。全体的には、「⑩PTA活動等における保護者の負担」が最多で、回答者の47.7%が負担に感じていることがうかがえました。

5ページは、小学校区別の理由の内訳を記載しております。16の選択肢は、①から④までが児童数が多いことに肯定的、⑤から⑧までが児童数が多いことに否定的、⑨から⑫までが児童数が少ないことに肯定的、⑬から⑯までが児童数が少ないことに否定的な理由としております。意見理由割合の最多が「児童数が少ないことに否定的」の学校は13校（同率を含む。）ありました。水色の部分で、2番目の理由が「児童数が少ないことに肯定的」の学校は9校ありました。桃色の部分で、比較的児童数の少ない学校で同様の傾向がうかがえました。志布志小と香月小では、「児童数が多いことに肯定的」な理由が最多となっています。4つの区分のうち「児童数が多いことに否定的」な理由が最少ですが、香月小、安楽小、原田小の3校については、2番目に多い理由となっています。

6ページには、⑰のその他の理由について記載してありますので、お目通しください。

7ページを御覧ください。全体では、1クラス当たり「10人以上20人未満」が良いと考える回答が多くなっていますが、志布志小、香月小、有明小では「20人以上30人未満」が最多となっています。比較的児童数の少ない学校が、「10人以上20人未満」が良いと考えている傾向がうかがえます。

8ページから29ページにかけて、問6の感想や意見等を学校ごとに記載しております。8ページの上の表ですが、全体で153件の意見がありました。内訳としては、「すぐに必要」と回答した方が68件、「将来的には必要」と回答した方が62件、「必要ない」と回答した方が8件、「分からない」と回答した方が15件となっています。「すぐに必要」、「将来的には必要」と回答した保護者からの意見等が全体の85%となっています。全回答704件のうち21.7%の保護者から意見等がありましたが、「すぐに必要」と回答した保護者の42.2%が意見等を記入しており、危機感を持っていることがうかがえます。たくさんの感想や意見が寄せられていますので、御一読いただければと思います。

30ページを御覧ください。51ページまで、アンケート調査結果を中学校区や小学校別にまとめたものを記載しております。それぞれ説明については、割愛させていただき、31ページから35ページまでの中学校区ごとの傾向について御説明させていただきます。

まずは、アンケートの回答率について、31ページの松山中学校区が76.1%、32ページの志布志中学校区が51.3%、33ページの有明中学校区が77.2%、34ページの宇都中学校区が46.6%、35ページの伊崎田中学校区が48.1%となっています。宇都中学校区と伊崎田中学校区での回答率が低くなっていて、関心が低いことがうかがえます。学校の在り方検討が必要だと思いませんかの問いに「すぐに必要」と回答した保護者の割合が、31ページの松山中校区は35.3%でしたが、32ページの志布志中校区は23.5%、33ページの有明中校区は16.7%、34ページの宇都中校区は14.4%、35ページの伊崎田中校区は36%となっており、伊崎田中を除く有明の2中学校区については、危機感が薄いことがうかがえます。

それから、回答理由につきましては、⑩の「PTA活動等の負担が大きい」と回答した保護者の割合が、31ページの松山中校区は54.9%、32ページの志布志中校区は38.9%、33ページの有明中校区は50.6%、34ページの宇都中校区は59.8%、35ページの伊崎田中校区は68%となっており、全体平均が47.7%でしたので、比較的小規模な学校において、PTA活動に対する不満が大きいことが分かります。

36ページから51ページまでに小学校ごとの集計表がありますので、御確認いただきたいと思います。

教育委員会としましては、このように地区や学校ごとの傾向が顕在化してきましたので、保護者や地域の方に積極的に情報提供し、それぞれの地域に合った「小学校の在り方検討」に生かしていきたいと考えております。

以上が、アンケート調査結果の内容となっています。

【下平市長】

ただ今説明がありましたが、皆さんから何かご意見等はございませんか。

【益田委員】 「P T A活動等における保護者の負担が大きい」には、どのような意見がありましたか。

【岡崎課長】 今回のアンケートの結果では、P T A活動の負担が大きいというその理由まで読み解くことは困難でしたが、最近では、共働きの世帯が多くなってきており、奉仕作業等のP T A活動に費やす時間の確保が難しいとの意見が多いのかなと思うところです。

【益田委員】 最近では、学級長や副委員長などのP T A職を廃止にした学校もあると聞きますが、学校行事への参加を含めた連携が図れなくなることが懸念されます。P T A離れの対策など、どのような形で改善を図っていくのか議論していく必要があるのではないのでしょうか。

【岡崎課長】 このことについては、各学校で取り組んでいる内容も若干異なるので、今回のアンケート結果を踏まえて、各学校でもP T A活動の内容について議論していく必要があると感じたところです。

【下平市長】 このアンケート資料が、良くまとめられた内容になっている反面、質問の仕方が難しくなっている感じもします。

【岡崎課長】 本日、報告させてもらった内容については、各学校に設置している学校運営協議会でも協議の参考資料として活用させていただきたいと思っています。

【下平市長】 まずは、活用し議論してもらうことが大切だと思います。

【松原教育委員】 これまで何度かアンケートを見る機会があり、5年位前のアンケート結果であれば、地域にこだわった意見が多数であったが、今回のアンケート結果による児童生徒数の予測値で保護者の見方も大きく変わってきていることを知ることができたので、大変良かったと思います。コミュニケーション能力とか社会に出てからの次へのステップへ繋げるために、例えば特認校という小規模校の良いところだけを狙って入学してくるが、逆に地元の子どもは、

他校へ通うことはできないことに対する配慮があっても良いと考えます。様々な機会を通じて意見合意を得ながら、変えていく必要があると思ったところです。

【下平市長】 良くまとめられたこのアンケート結果報告書を活用していくということですね。

【岡崎課長】 御意見をいただいたとおり、将来の子ども達にとって、より良い環境を整えていくために、それぞれの地域の課題として認識していただき整理できればと思います。よろしくお願いします。

【下平市長】 他に何かありませんか。

【児玉補佐】 引き続きまして、令和5年度に取り組む小学校の在り方検討について、協議していただきたいと思います。

資料は10ページになります。教育委員会における本年度の検討方針を記載しておりますので、こちらで読み上げますので、それを受けて、協議を行っていただきたいと思います。

令和5年度に取り組む小学校の在り方検討については、次のとおりとします。

1番の「小学校の在り方検討の目的」ということで、組織として共有すべき目的は、児童が減少する中で、将来の担い手となる子どもたちにとっての「より良い学びの場」を考える。としています。

2番の「令和5年度の目標」ということで、二つの目標を設定しました。(1)の小学校の在り方に関し、各小学校の学校運営協議会等の意見を聴くとしています。各小学校の学校運営協議会等において、「今後の児童生徒数の推移」及び令和5年1月に実施した「小学校の在り方に関するアンケート調査報告」を示し、現状を理解していただいた上で、小学校の在り方に関して率直な意見を聴きます。(2)の保護者や地域の方が、小学校の在り方について主体的に考えていただけるようにします。説明や協議等を行う際は、対話型とし、保護者や地域の方が、将来の担い手となる子どもたちにとっての「より良い学びの場」について、「自分事」として考

えていただけるようにします。

3番の「学校運営協議会等への説明方針」ということで説明に当たっての肝となる四つの事項です。(1)のアンケートでは、小学校の在り方について検討が「必要」との回答者が8割を超えており、保護者が教育環境について検討が必要と感じていること、(2)では、1クラス当たりの児童数は、保護者の50%が「10人以上20人未満」を望んでいること、また、44.5%が「20人以上30人未満」を望んでいること等を説明します。市教育委員会が策定した「学校規模適正化の基本方針」では、「小学校は複式学級を解消する1学年10人以上、全校で6学級以上」としていること、また、複式学級の学級編成基準は、引き続く学年で編成する場合16人以内で、1年生を含む場合は8人以内と定めています。(3)では、PTA活動の負担が大きいと感じている保護者が47.7%いること、特に小規模な学校において、その割合が高くなっています。(4)のアンケート結果を踏まえて、保護者や地域の方々に「子どもたちにとっての『より良い学びの場』となる学校の在り方について」協議をしてほしいと思っており、その際には、教育委員会が積極的にサポートを行っていくこととしています。

4番の「その他」として、定例教育委員会や総合教育会議を開催し、教育委員や市長部局との情報共有や連携強化に努めていきたいと考えています。以上でございます。よろしくお願いいたします。

【下平市長】 ただ今、説明のありましたとおり、令和5年度に取り組む小学校の在り方について、その内容で進めても良いでしょうか。

【福田教育長】 担当者から説明がありましたが、私たちが大事にしなければならないことは、数字そのものの事実があり、その数字から保護者及び地域の方々の感じ取ったものがアンケート結果という形で表れています。このことを担当部局だけでなく全ての方々に掴んでほしいと思っています。そして、次の段階としては、学校運営協議会等を通じて情報共有し、関係部署間で繋ぎ合わせていく取組を令和5年度で実行していきたいと考えています。既に動き出している中学校区もあり、熟議していこうとする流れが出来つつあ

ります。そこまで全ての校区で浸透してくれれば、それぞれの方々が、正に「自分事」として受け止めて、主体的に学校の在り方についての声があがってくることを期待しているところです。行政側から一方通行で取り組んでいくことよりも、関係者が繋ぎ合っ
て意見を出し合い、行政側に伝えるという流れが地域づくりであり、まちづくりに繋がっていくのではと思うところです。

【下平市長】 基本的には、子ども達にとってのより良い学びの場ということ
を認識していただき、それぞれの場でしっかりと情報提供して
いただきたいと思います。

【島津委員】 P T A活動には、職場だけでなく地域の理解や企業の協力も得
ながらでなければ続けられないと思います。

【岡崎課長】 おっしゃるとおり、P T A活動には、地域の理解や企業の協力も
必要であり、親の学ぶ機会や親睦を深める機会でもあると思いま
す。地域を含め、児童生徒数の推移について、それぞれの場で情
報発信に取り組んでまいりたいと思います。

【下平市長】 全課で情報を共有していく必要もありますので、市役所内であ
れば課長会を通じて発信しても良いと思います。

【福田教育長】 市商工会会員の企業が集まるような会合があれば、その場をお
借りして児童生徒の推移についてお示しできればと思います。

【下平市長】 それでは、最後の協議に入ります。

【徳重係長】 かごしま国体かごしま大会開催に伴う協力体制についてご説
明申し上げます。資料は11ページになります。国体の概要から
少し説明させていただきますが、大会名及び愛称につきましては
は、特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」となります。
開催期間につきましては、令和5年10月7日から17日の10日間
で開催されます。鹿児島県での開催は、昭和47年の太陽国体が
51年ぶりの開催となっております。

実施競技につきましては、正式競技、特別競技、公開競技、デモンストレーションスポーツと四つの競技がありまして、何かしらの競技を全市町村で実施をする計画になっています。

次に、志布志市での実施競技ですが、正式競技としてサッカー競技成年男子を開催します。参加人員につきましては、監督及び選手合わせて16チーム、256名の参加が見込まれているところです。競技会場は、志布志運動公園陸上競技場としおかせ運動公園となります。

本市での開催期間は、10月12日から15日までの4日間が予定されています。もう一つのデモンストレーションスポーツについては、5月28日に歴史探訪ウォーキングを開催済みで110名の参加があったところです。サッカー競技の競技日程につきましては、10月14日が準決勝、翌15日が決勝及び三位決定戦を予定しています。

続きまして12ページを御覧ください。今後のスケジュールについてですが、開催直前イベントとして7月22日に、陸上競技場で元日本代表の前園真聖さんによる小学生を対象としたサッカー教室を計画しているところです。小学校1年生から3年生までの50名、小学校4年生から6年生までの50名に分けて、合計100名の参加を見込んで計画しているところです。

次に、「太陽国体とかごしま国体企画展」と題して、7月4日から10月15日までを志布志市埋蔵文化財センターにおいて、太陽国体当時の写真や資料等の展示及びかごしま国体の資料等の展示を計画しています。

3番目に、かごしま国体・かごしま大会の炬火リレーを8月2日午前7時30分から開始する計画です。内容につきましては、志布志市多目的イベント広場から陸上競技場までの約1,500メートルを6区間リレーで行う計画です。

4番目は、国体本番となり10月7日から17日までで県内各地で各種競技が実施されます。

5番目は、志布志市で成年男子のサッカー競技が、10月12日から15日まで実施され、12日及び13日は、市内の小中学校生の学校観戦を計画しております。

(一部非公表)

最後に、16ページになりますが、国体開催に伴って市職員の動員計画案ということですが、特に、10月12日が初日ということもあり多くの職員の協力が必要な計画になっています。8月に動員依頼を行い、9月に従事者の説明会を開催し本番を迎えるというスキームになっています。よろしくお願ひします。

【下平市長】 　ただ今、説明がありましたが、ご意見等はありませんか。

【益田委員】 　意見ではないですが、資料16ページの下段表の日付修正をお願いします。

【下平市長】 　有難うございます。他にはないでしょうか。特に無いようですので、以上をもちまして、日程にある全ての協議を終了したいと思ひます。

将来を担う子ども達のためにも、学校、保護者、地域及び行政が協働しながら、「より良い学びの場」を築いていけますよう、引き続き委員の皆様方と協議していきたくと思ひますので、今後ともよろしくお願ひします。

御協力ありがとうございました。

【小山課長】 　議長ありがとうございました。

○ その他

【小山課長】 　それでは、会次第の「5 その他」についてですが、委員の皆様方から協議事項以外に何かございますか。又は、協議事項で再度確認しておきたいことなど、何かございますか。

【赤塚参事】 　鹿児島県特別支援教育学校の分置について報告させていただきます。

(報告案件の全文は非公表)

【小山課長】 これまでの競技や報告について、改めて委員の皆さんから何かご質問等はありませんか。

事務局からの提案になりますが、総合教育会議は、原則として公開することとなっております。ただし、会議の設置要領第6条第3項で、公益上特に必要がある場合には非公開にすることができる」と規定しております。先ほど協議された民間委託業者の選定に至る詳細等、かごしま国体かごしま大会に伴う計画の一部及び鹿児島県特別支援教育学校の分置報告については、デリケートな部分で、まだ公表できる段階にないということで非公開とし、議事録には掲載しないようにしたいと思いますが、皆様、それでよろしいでしょうか。

(異議なしの発声あり)

【小山課長】 ありがとうございます。

それでは、非公開扱いになりましたので、口外されることのないよう御協力をよろしくお願いいたします。

○ 閉会

【小山課長】 以上をもちまして、令和5年度「第1回志布志市総合教育会議」を終了させていただきます。ありがとうございました。

午前11時20分 閉会

会議録署名

志布志市長 下平晴行

教育長 福田裕生

教育委員 松原 治美

教育委員 島津 陽亮

教育委員 津町 千代子

教育委員 益田 裕子